

第18回 かたの環境を考える委員会の記録

- ・日時：平成23年6月20日（月） 18:30～21:30
- ・場所：交野市役所 別館3階中会議室
- ・テーマ：〔課題の設定／企画づくりを学ぶ〕

■ 第18回委員会の進行・内容は以下の通り。

- ★18:35 交野市環境保全課長より開会の挨拶。
- ★18:36 環境市民事務局長 堀孝弘より挨拶。
- ★18:37 各グループで、課題の設定／企画づくりを学ぶ
- ★21:10 全体共有

【エネルギー】

- ・有意義な意見交換になった。
- ・課題は2つに絞りこんでいる。
- ・そのひとつ、「自然エネルギーを普及させる」について、太陽光と地熱発電について考えた。
- ・次回までの宿題として、各々が大胆な企画を考えて持ち寄ることになった。

【エコ生活】

- ・問題点を挙げた後に、ビジョンを描いた。
- ・自然を身近に感じられる暮らしなど、「ゆったりと」がキーワードのビジョンになった。

【まちづくり】

- ・そもそもまちづくりとは、「人が暮らしていく舞台」
- ・子どもを地域社会で育てるしくみ、公園の使い方、交野のシンボル、交通などについて話し合った。

【自然環境保全】

- ・最初に農とみどり課職員から緑の基本計画についてお話を伺った。森林ボランティアが500名いるなどの情報や資料をいくつも持っており、これまでいろいろと不安だったが安心した。
- ・後半はグループで話しあった。
- ・問題は大きく二つ、「山が荒れている」「川が豊かでない」とされ、それぞれのビジョンとして、理想の山、理想の川を実現すべく私たちは何をしたらいいのか考えた。
- ・理想の川として、生き物が住みやすい川、子供が泳げるくらい澄んだ水、カワセミがいてほしいなどの意見が出た。
- ・エアレーション、竹炭を使えばいいのではとのアイデアが出た。

■各グループの記録

★エネルギーグループ

1. 「交野のエネルギーの課題」の確認とプロジェクト立案に向けて共有

前回、第17回(6/7)で設定した2つの課題について、確認を行った。

- 1) 自然エネルギーを普及させよう
- 2) 省エネをすすめよう

・2つとも課題の枠が大きいので、活動の守備範囲が広いが、いろいろなことに取り組める利点もある。

前回、課題設定の後にプロジェクト立案に向けて各メンバーが、取り組んでいること、取り組みたいことを書き出したので、その内容を参考に考えていく。

交野らしさがあり、プロジェクトをつくってから多くの人に関わってもらえるような魅力的なものにしていきたい。

2. 交野で活動する人の現状と環境教育について議論

- ・交野市内には、温暖化防止活動推進員の連絡会はない(家電販売店からの参加が多い)。
- ・交野は環境で集まる人が固定化していて、次世代(若い人)に引き継ぎができていない。

⇒ 発表会でどう集めるかがテーマになってくる。

⇒ シニアの集め方が重要な課題になる。

⇒ 地域単位でなく、テーマ型にすると入りやすいのではないか

⇒ 学校に対して「エネルギー」を学べる企画を持ち込むのはどうか。

PTAをターゲットにしてもいい。要請があったときにすぐ対応できる状態をつくる必要がある(環境基本計画推進団体から、内容のしっかりしたものに対して、お墨つきを与える)。

場と機会があれば人が集まる。

⇒ 7つの問題として絞り込んだ問題のうち「3. 地球温暖化問題についてよく知られていない」は課題にはなっていないが、環境学習の機会や仕組みをつくっていくプロジェクトも考えられる。

コンテンツは、市民委員他、大阪ガス、関西電力も持っている。

自然もエネルギーも、暮らしも、自然も学べる学習の機会を、他のグループと一緒につくっていくことが重要。

3. 「企画づくりをしてみよう」レクチャー 環境市民・堀より

- ・何のために「活動」を企画するのか、企画に必要な条件は何か、事例を紹介しながら説明。
- ・実施主体として、現在のエネルギーグループも母体の一部になる必要がある。エネルギーグ

ループを母体にして実行委員会をつくることもできる。

- ・実現したいことだけ記しても「企画」にはならない。実現に至るまで、市民アンケートの実施や、他地域の先進事例の調査、社会実験や効果測定など、幾つものステップがある。
- ・それらを「実現に向けた階段」とすると、どのような階段をへて「実現したいこと」にたどりつけるか、それを示すのが企画であり、企画書である。

4. 宿題

- ・課題にそったテーマで、企画考案シートを各自が考え、7月1日夕方までに fax かメールで環境市民まで提出。
- ・メンバー同士で重複する内容でもよいので自由に考える。次回持ち寄って議論を進める。
- ・企画としての完成度は問わない。願望だけ記していてもよい。
- ・企画には、7つの問題と2つ課題を念頭に入れることが必要。

※その他

【エネルギーグループメンバー：市民委員の活動状況の共有】

交野と交野外で活動している。交野と一緒に活動している人は6人。

第1木曜日に「何でも語ろう会」をひらいている。

【太陽光パネルの普及について自由にディスカッション】

- ・設置場所の東西南北の向きや日照時間の問題はどうか
⇒ 東西につけても南につけると10%効率が落ちる程度。それほど問題はないのではないか。
- ・交野で太陽光パネルを設置する目的で出資金を募るのはどうか。
- ・太陽光パネルをつけて結果がどうだったか、設置者からアンケートをとり実態を知るのはいか。
- ・学校の屋上に設置できればいいが、現状の建物では防水工事がないと設置は難しいので、建て替えの時になるだろう。
⇒ 防水シート太陽光パネルをつくれればいいのではないか。

☆次回は、宿題として提出されたプロジェクトの共通項を見出し、内容をすりあわせていく。

★エコ生活グループ

1. 問題の見直しを行った結果、以下が必要かつ緊急度の高い問題となった。

- ・ が多い

補足：交野市のごみ集積量は平成 17 年から平成 21 年にかけて減っているが、さらに減らしていくためには、3R（交野は 4R。リフューズが入る）にもとづいて絶対量を減らしていくことが大事。

- ・ 自動車に頼った暮らしになっている。
- ・ ライフスタイルがエコライフスタイルになっていない。
- ・ 環境教育の場・学んだことを行動に移す場がない。
- ・ エコ生活がしやすいものの売り方になっていない。
- ・ 大量消費大量生産の意識になっている。

2. ビジョンの洗い出し

課題を考えやすくするために、ビジョンをあわせて考えた

- ・ 自然を身近に感じられる暮らし
- ・ 食とモノを大切にした暮らし（イメージ：地産地消、食事の量、いらぬものは買わない）
- ・ エネルギー問題に関心を持ち、行動している人が多い
- ・ 次世代につながる
- ・ 一人ひとりが自分のできるエコライフを考えている
- ・ シンプルな生活
- ・ ゆったりと時間が流れていて心豊かな暮らし

3. 課題の設定

■（問題）が多い

- ・ モノの命を考えてみよう
- ・ どうしても出たごみは有効活用しよう
- ・ 無駄なものを買わないようにしよう
- ・ 買う前、捨てる前にもう一度考えてみよう

■（問題）自動車に頼った暮らし

- ・ 公共交通を利用しよう
- ・ 自転車を使おう
- ・ 歩こう
- ・ 自動車をできる限り使わない暮らしをしよう

■（問題）エコ生活がしやすいモノの売り方になっていない

- ・ ゴミを出さない売り方を一緒に考えよう
- ・ 量り売りをしているお店を増やそう

☆次回は、問題からビジョンを考えつつ課題化を図る。

★まちづくりグループ

1. 緑の基本計画との関連を考える（※自然環境グループと合同）

農とみどり課職員より概要版についての説明と、質疑応答。

<質疑内容>

■緑地の確保目標について

- ・ 数値の根拠は？→後日回答
- ・ 実績としては昨年、山に桜を 600 本植樹したほか、第二京阪沿いに植えた木も今は幼木だが、10 年単位で育つことを見込んでいる。

■里山保全について

- ・ 方針は？→基本的に人・金がかかるため、ボランティアの後方支援や、府のアダプトフォレスト制度、国の保全予算を利用するなどしている。
- ・ 実績としては、H12 年～22 年に里山保全講座を開講。受講者 233 名のうち約半数がボランティア（交野里山ゆうゆう会）として活動している。他の組織とあわせると、ボランティア数は現在 500 名以上。
- ・ 具体的成果は？→後日回答
- ・ 木、竹の活用法は？→特になされていない。（昔は竹が売れたが、今は皆無）。間伐されず放置されているのが問題である。間伐材の活用についての勉強会を開くなどしていきたい。

■「いきものふれあいセンター」について

- ・ 年間に約 1 万人の記名来館者があり、それ以外の利用者を含めると延べ 10 万人程度来館していると思われる。そのため、様々な情報集積の場となっており、もう少し活用を広げていきたい。
- ・ ハイキングコースは府、区からの委託で市が管理しており、市民の参加も可能。非営利の観察会や小学校の学習会にも利用されている。
- ・ 市民参画への呼びかけをしているか？→山地保全講座を開いているが、参加者は少ない。

■花と緑のまちなみ形成について

- ・まちなみ形成といっても修景までは含まれていない。
- ・3年前まで5年間の「花ボランティア講座」を開講。現在「花と緑の会いぶき」というボランティア団体（会員数約100名）として活動している。

■その他

- ・市内各所でアライグマが増加しており、市民の手を借り捕獲してもらっている。
- ・その他の具体例・データ等資料は、交野市ウェブサイトの緑の基本計画を参照のこと。随時質問にも応じている。

2. 問題を課題に置き換える

<今回の議論>

・前回までに見落とされていた「子どもの顔が見えない、子どもを叱る大人が少ない、子どもを見て行こうという地域づくりができていない」など、「地域と子ども」の問題は非常に重要な視点なので、問題として取り上げることとする。

・「まちなかの緑、公園」については、山の緑に恵まれている事とは別に、課題にする必要があるのでは？（継続議論）

■課題に置き換えた問題

（問題）地域が子どもを育てていない

⇒（課題）地域で子どもを育てる場づくり

解決できること：地域の人と子ども・親とのコミュニケーション、安心して子どもを外で遊ばせること、人づくり、場づくり

■課題に置き換える作業が必要な問題

- ・自転車で安全に走れる道が非常に少ない

■継続議論が必要な問題

- ・まちなかの緑、公園：子どもが遊ぶ場所、球技できる場所が少ない、年配の方が過ごせる公園がない、各住宅地の公園が少ない、公園のメンテナンスが不十分、小さい公園が活かされていない、街路樹（緑）が少ない
- ・まちのシンボルが明確でない、交野サイズになっていない
- ・マナーがない、道路にポイ捨てごみが多い
- ・防犯：街が暗い。車上荒らし増加、変質者が多い

- ・防災：実生活に即した防災対策ができていない

☆次回は、課題の設定（つづき）と、ビジョンを考える

★自然環境保全グループ

1. 緑の基本計画との関連を考える（まちづくりグループと合同）

農とみどり課職員より概要版についての説明と、質疑応答。詳細は上記参照。

2. 「緑の基本計画」の話を受けて

各自が感じたことを話し合った。「里山保全にはお金がかかる」「ボランティアが高齢化し広がりが出ていない」「ボランティアは気まぐれだから楽しむという要素が必要」「ボランティアと住民の距離を近くしなければ」などが挙げられた。

多くのボランティアが楽しく続けられる仕組みを考えたいということと、私たちのつくる「環境基本計画」は方針のみではなく「具体的に何をするか」を書き込むことを確認した。

3. 前回の議論の内容を確認した。川の問題について、「理想の川」を考えてみた。

- ・子どもが泳げるぐらい澄んだ水
- ・スムーズに流れている
- ・ハヤ、サワガニ、カワセミなど、生きものが棲みやすい
- ・市民が楽しめる川

4. 「課題」を考えるため、その考え方を整理した。

「理想の山、理想の川（ビジョン）を実現するために、これらの問題に対し、私たちは何をすべきか」 = 課題

5. 川の問題について、課題の設定を試みた。一つの課題が挙げられた。

- ・生きものが棲みやすい川にする

☆次回は川の課題がこれでいいか確認し、また山についての課題を設定する。

ここまでの整理は以下のとおり。

【問題1 川が豊かでない】

- ・自然に還らないごみがある
- ・生きものが少ない

- ・大切にすることが育っていない
- ・小川や用水路の水量が少ない
- ・水質がよくない

【理想の川（川に関するビジョン）】

- ・子どもが泳げるくらい澄んだ水
- ・スムーズに流れている
- ・ハヤ、サワガニ、カワセミなど、生きものが棲みやすい
- ・市民が楽しめる川

【川に関する課題】

- ・生きものが棲みやすい川にする

（その他、出てきた話のメモ）

- ・生活排水が川に流れ込んでいる
- ・農薬や除草剤、化学肥料が生きものに影響を与えている
- ・コンクリート張りをはがすことは可能か？
- ・川の自浄作用促進のためにエアレーション、竹炭など
- ・山の保水力を高める

【問題2 山が荒れている】

- ・生物調査が必要
- ・森林整備（間伐など）が必要
- ・竹林整備が必要
- ・地権者の事情を知る必要
- ・行政の施策が不十分
- ・市民活動を持続的に進める仕組みがない
- ・市民と地権者と行政をつなぐ仕組みがない

【理想の山（山に関するビジョン）】

- ・生物多様性が保全されている（主）
- ・ハイキング、森林浴など山遊びが楽しめる（副）

【山に関する課題】

（7月4日の会議で設定する予定）

以 上